

第1回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日時	令和3年6月1日(火) 14:00~15:45
会場	中小企業活性化センター セミナールーム(2)
議題	会の進め方、検討事項について
配付資料	次第 資料1 設立趣旨・背景、協議対象範囲について 資料2 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会設置要綱 資料3 会の進め方、検討事項について 資料C 委員・オブザーバー名簿

○主な意見等

【協議、社会実験の進め方について】

- ・駅前エリアのあり方について具体的なことを考えていくと、様々な問題にぶつかるが、それは想定内。失敗するかもしれない、難しいから「やめよう」ではなく「とりあえずやってみよう」とすることが大事。
- ・両地区(中央一丁目9番、10番)の再開発のあり方と同時に考えるのは今後100年ないだろう。この機を逃さない。地権者のみなさんはこの場所に関わらせてもらっている一人として責任があると考えてほしい。
- ・立場それぞれあるのは承知のうえだが、委員の知恵を絞っていただきたい。
- ・この広場は“仙台の顔”となる場所で市民全体の興味関心が高いはず。市民参加・市民参画は戦略的に考える必要がある。それはゆくゆく利活用につながる。単にハードをつくるだけでなく、市民が受け入れ市民が使う仕掛けが重要。
- ・国際競争力のあるエリアとは何か。これから両地区の開発も始まる。足かせになるというより、エリアの価値があがるようなあり方を希望する。広場化を検討するにあたり、土地の評価のありかたもどう変わるのかなど、現実的な部分も検討していきたい。
- ・こういった集まりにはシンボリックなことが必要。広場化のイメージが先行しており、足を引っ張っているように感じるが、「広場化」は非常にシンボリックで有用な言葉だと思う。物理的な広い場所ではなくて、広場に集まるには、広場で楽しくするには、広場に人が集まった時ほかの道路はどうなるかなど。ひとつシンボリックな言葉があると同じベクトルを持ちやすいし意見が出やすい。これが物事の進め方ではないか。いまのところ経済・交通、様々な意見がでてまとまらない。広場化という概念を共有できればもっとまとまるのでは。
- ・昭和の時代から様々な計画や提案を実行するとなると困難だった。どうすれば実行できるかが大事と思う。検討を重ねるよりも実行してから検証して修正すべき。
- ・社会実験を行う際は、利用者からアンケートを取るだけでは偏りが生じる。利用していない市民の評価結果もまとめてほしい。
- ・社会実験を行う際は、データとして参考にするために長期の実験と成果が必要なのでは。
- ・社会実験は、今現在の市民や観光客、公共交通の利用者の動きを把握してからやると良いかと思う。他都市の事例などを有識者から提言を受けるのはどうか。

【このエリアのあり方について】

・未来にものすごく責任があるという話。東北で1番の場所でないといけない。“玄関口”の意味は、入ってくる場所のイメージだが一番大事なのは次に来てもらえる所になるかどうか。仙台駅に欠けているのは、最初に来た人がアツとなる場所がないのも残念だが、帰る際に「仙台は良かったな」、「もう一度来たいな」と思ってもらえるような、ゆったり時間を過ごす場所が必要。それが空間作りや機能だけでは語れないかもしれないが、雰囲気、空気や水の流れ、人の往来をゆったり眺めたりする時間。そういったことを提供できるような空間でありたい。

・キーワードに先進性、先端性の位置づけを検討材料にいれてもらいたい。東北の玄関口としての印象形成に重要と考える。

・仙台は他都市と比べて、1か所に出かけてそこから帰ってしまうという事象が目立つ。回遊性がない。これが課題。徒歩、地下鉄、車すべてに言える。

・高齢者の視点を踏まえ、歩きたくなるまちづくりを考えたい。

・平成4年に仙台駅前商店街振興組合にて「仙台駅前地区将来の姿」という冊子を作った。この内容を見直しながら意見を提案したい。

・東日本大震災の直後は、駅前エリアは帰宅困難者でごった返した。広場化は賛成だが、災害や防災の観点からいくつかの工夫が必要と感じる。特に災害時、外国籍の市民に向けた避難誘導のサイン等も国際化の観点から必要と考える。また、防災拠点として整備するとともに、“杜の都”の風格がほしい。そして広場化の際は緊急車両の通行は課題として提言する。

・2019年の台風19号の際は、冠水が地下道へ広がった。近年頻発している気候変動に対応できるような広場化を検討してほしい。できれば専門家の意見も取り入れながら検討を進めてほしい。

・広場化は魅力的だと思う。仙台の玄関口が賑やかになるのは良い。市民の誇りとなるような憩いの場を考えたい。

・観光の観点を取り入れたらいいのではないかと。観光客の玄関口として、観光客が使いやすい仙台の印象付けが必要。

【交通について】

・青葉通を単純な平面に広場化してしまうと、公共交通とりわけバス事業はかなり不便なものになってしまうことを危惧している。

・このエリアは旧さくら野と向かいのエデンに10か所バス停があり、1日460便以上のバスの発着がある。利用者の定着もあり結節点としても交通の主たる場所。バスの「現在の流れ」をどこにもっていくのか。バスだけは青葉通を通れるのか。利用者、市民の目線で考えてほしい。広場化によって制限された交通量は他の場所の渋滞発生など問題になりかねない。

・今後合わせて検討してほしいのは、国のバスタ計画。仙台も候補地と聞いている。青葉通が適切かは未知だが、ひとつの候補として“広場化+バスタ”を提案したい。歩きたくなる空間とそこに集う人を運ぶ交通の便と合わせて一体的に実現可能なものになるのでは。

・タクシーが、例えば仙台駅タクシープールから国際センターへ向かう場合、広場化によって迂回が生じるのはお客様にとって不便だ。